

「関西地区を支える身近な物流」をテーマに
関西大学寄附講座の一環として物流施設見学会を開催

ヤマト運輸(株)、センコー(株)、関西国際空港を
関西大学寄附講座受講生 34 名が見学

社団法人日本物流団体連合会は 6 月 4 日(土)に、関西大学商学部において現在開講中の寄附講座「物流の変革」の受講学生を対象に物流施設見学会を行いました。この取り組みは、講座の一環として学生の物流に対する理解をさらに深めることを狙いとし、関西大学での寄附講座開講時には実施している企画で、2 年ぶりとなりましたが、今回も学生・教職員から好評を得ました。

今回の見学会は「関西地区を支える身近な物流」をテーマに、約 1 日をかけてヤマト運輸(株)大阪ベース店、センコー(株)舞洲PDセンター、関西国際空港を見学し、学生・教職員を含め 34 名が参加しました。

午前 10 時にJR大阪駅に集合後、大型バスで移動し、大阪市住之江区にあるヤマト運輸(株)大阪ベース店に到着。施設内にて、ヤマト運輸(株)の長信哉 副ベース長より、施設の概要・特徴・業務内容の説明を受けた後、施設内の自動仕分け機や物流倉庫などを見学しました。システム管理でお客様への荷物がスムーズかつスピーディに流れる現場を見て、学生からは驚きの声があがりました。温度管理の厳しい商品の取り扱いをされている定温庫内では、実際に働いている方に直接質問を投げかける学生もいました。

次に、センコー(株)舞洲PDセンターに移動し、山本隆志 大阪主管支店長からご挨拶を頂き、朝倉学 舞洲PDセンター所長から施設概要の説明を受けました。その後、二手に分かれ飲料メーカー・タイヤメーカーの入る施設を案内して頂きました。飲料とタイヤという、全く違った物の仕分、保管を目の当たりにし、同じ仕事でもこれだけ種類・品目があると大変そうだと、学生からも声が漏れていました。

最後に、関西国際空港(株)へ移動し、同社経営戦略室の大中淳司 サブリーダーの案内で、一般の人が入ることのできない国際貨物上屋を見学。旅客利用はあっても、初めて貨物上屋に入る学生たちは、セキュリティの厳しさなど実感し、緊張の面持ちでした。輸入・輸出の両上屋で実際に到着した貨物や、これから輸出される貨物を見て、航空機専用のコンテナの数の多さと徹底された品質管理を体感。貨物専用機も見学していた場所からすぐ見ることもでき、間近で見る貨物機の大きさや飛び立つ姿に一同目を奪われていました。その後、医療関係の定温倉庫を見学し、関西国際空港を後にし、JR大阪駅で解散となりました。

今回の見学会は、関係各所の皆様に多大なるご協力を頂き、開催することができました。事前にヤマト運輸(株)の三浦武 リテール営業部長による「宅配便」、関西国際空港(株)の濱勝俊 経営企画部長の「関空の現状と課題」の講義が行われ、また見学会翌週には、センコー(株)の福田泰久 代表取締役社長の講義も控えていたこともあり、聞いて学ぶだけでなく実際に目の当たりにすることで、関西地区を支える物流について、より理解を深めることができ、有意義な企画であったと思われま

以上

担当:(社)日本物流団体連合会

事務局 藤 鳥

Tel 03-3593-0139

Mail: fujishima@butsureyu.or.jp



【写真上段：ヤマト運輸(株) 大阪ベース店】

左：お馴染みクロネコヤマトのトラック前で集合写真

右：自動仕分け機を前に、学生が積極的に質問

【写真中段：センコー(株) 舞洲PDセンター】

左：慣れないヘルメットを被って見学

右：舞洲PDセンター前で記念撮影

【写真下段：関西国際空港 貨物施設】

左：航空機専用のコンテナを前に説明を受け、熱心に聞く関西大学の学生たち

右：JAL KAS施設前で記念撮影